



HSK

かな づき
神無月号

NO.119 2010.10.10号

Advocate

1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号463号
発行/2010年10月10日
編集者/我妻 武
住所/〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F
特定非営利活動法人 札幌・障害者活動支援センターライフ
TEL 011-614-1873 FAX 011-613-9323
H P <http://npolife.net/>
発行/北海道障害者団体定期刊行物協会
定 価/100円

「ライフ20周年祝賀会を開催」



去る10月16日に札幌ホテルヤマチにおいてライフ設立20周年祝賀会を約200名の方々と一緒にお祝いしました。

当日は上田文雄札幌市長と深澤理事長、石澤専務理事による鼎談でスタートし、障がい者だけではなく失業やシングルマザー、ニート、ひきこもりなどの課題を抱えている方々も包括する社会的事業所としての役割を担っていくことが宣言され、上田市長も札幌市の取り組みとして社会的事業所が重要であることをお話されていました。

また前日に札幌エルプラザで行われた共同連のマラソントークにおいても社会的事業所の実践と役割について議論が行われましたが、そのマラソントークに発言者とお越しいただいた

方々にも祝賀会にご参加いただき、最後はスタッフ、メンバーが仮装をして「ええじゃないか」を叫びながら踊るという余興で盛会のうちに終了しました。

ライフの目標はたくさんあります。その目標を達成できるように頑張りますので、引き続きのご支援とご協力をお願いいたします。

NPOライフ理事 我妻 武



第27回 共同連全国大会 宮城大会 VOL 2

障害がある人もない人も「共に働く」社会的事業所をひろげよう
共に生き、共に働き、共に自立できる所得を！
～『社会的事業所』を目指して～



宮城大会、そしてこれから

専務理事 石澤 利巳

2010年8月28・29日の両日に開催された第28回共同連全国大会宮城大会は、史上初めて共同連と「きょうされん宮城支部」共催ともいえる大会であった。

地元宮城をはじめ、全国から700名の参加が報告された。我がライフは、3台の車両に分乗し、吉田拓郎ではないが「苦小牧発～仙台行きフェリー」に乗って15名でみちのく船旅に出発。

大会では、「躰をしなければならぬ人との共働は可能なのか」と語る支援員なる健常者が語る。「躰が必要なのはお前の方じゃん」と我がスタッフは叫びたかったとか。

「自分の身の回りのことができない人や生産性が低い人に同じ給料を払う事は逆差別ではないか」と発言する地元の作業所スタッフ。

「人間を能力主義でしか判断できないあんたたちが差別じゃないの」とひねくれオヤジのわたしやそう思った。こんな言葉を聞きに仙台に来たわけじゃなかったんだが、なんか驚きや怒りと同時に、情けない気持ちになったもんだ。

だが、悪いことばかりではない。一言一言、重みのある言葉を感じさせてくれた仙台ダルクの人たち。いつも真摯な姿勢の地元共同連の飯島さんとの再会や初めて紹介された沖縄の島田さんとの出会いなど成果もたくさんあったのでした。それでも、仙台の牛タンをつまみに飲む一蔵は本当に旨かった。

さて、仙台から帰ってからが大変。20周年祝賀会の準備、共同連マラソントークの準備、共同住居の新拠点探しに引っ越し準備、委託されたイベント出店準備等々、9月10月は仙台大会の余韻にひたる余裕もない忙しさの連続。それらの仕事に取り組む一人ひとりの顔を見ると、力強さを感じるこの頃。年をとったせいかな。

祝賀会の挨拶でも述べさせてもらったが、ライフのこれからの10年の目標は、地域に共に生きる生活の場づくりと社会的に不利な人々と

の共働を目指す「社会的事業所」づくりの2つである。親離れ子離れをしながら、いまだ差別の強い地域社会の中で、したたかに、しなやかに、生きる場をつくろう。そして、労働現場から排除されている多くの人々と共に働く事業体の建設が私たちの課題である。

この20数年間、私たちは、いろいろな人との出会いと別れを積み重ねてきた。ある者は病に倒れ、ある者は方向性の違いで去り、波乱万丈の20年と言っても過言ではない。そして、その人たちの貴重な活動の蓄積があったからこそ今日のライフがある。心から感謝したい。

そしてなによりも、「差別とたたかう共同体全国連合」という正式名称を持つ、NPO共同連との出会いは本当に大きな財産となり、貴重な存在となり、今では愛すべき、信頼できる大切な仲間たちである。

福祉的就労などというおためごかしではなく、社会的に不利な人々と共に働くことができる、真の「共働社会」実現に向けてさらに歩みを進めていこうじゃないか。

共同連宮城大会に参加して

たねや 島 明子

今回初めて共同連大会に参加でき、しかも今回は松島観光にも行けたのでとても楽しく勉強させて頂きました。

日々、「たねや」で障がいのあるなし関係なく対等に働くことを意識していますが、そんな中で働くニーズの違う人が一緒に働く難しさという壁にぶち当たり何とかやって来ているという状況です。この課題に対しヒントが共同連大会にあるのでは？と思いながら参加しました。

実際、共同連大会に参加し最初に受けた印象は、各団体参加者がパワフルであるということでした。特に私が参加した第三分科会（事業振興分科会）で発言されていた社会福祉法人はらから福祉会 くりえいと柴田副施設長 高橋祐一さんの「農商工連携事業とPBブランド商品づくり」という発題は興味深く聞かせて頂き

した。「くりえいと柴田」では様々なPB商品（プライベート商品）を作っています。何を作っているかと言うとレトルト商品・かりんとう・食べるラー油ということです。特にレトルト商品は湯葉入りオクラカレー・オクラこんにゃくカレーといったオリジナリティー溢れる商品で年商約6000万円とのことでした。さらに農商工連携事業という県から補助金を受けて行っている「地域戦略商品開発試作品製造業務」補助事業で「筍カレー」や「筍ご飯の素」を地元の筍生産組合・地元の商店・はらから福祉会と一緒に作るというプロジェクトを行っているそうです。しかも失敗を恐れず地道に新しい商品を作り続ける姿勢に感心すると共に、自分自身のチャレンジ精神がまだまだ足りないことに気付き反省しました。このような地域密着型の仕事づくりがあるということを知り、とても参考になると同時にこのような事業に結びつけるには日々の出来事にヒントが潜んでいると、考え、毎日を過ごすことが大切だと思いました。このような事業が増えれば、障がいのある人と関わったことのない地域の人々と関わり「障がい者は施設へ」という意識が減り障がいのあるなし関わらず暮らしやすい地域が増え共生共働にも結びつくと思えました。

その他、「やればできるさ」の上映会があった途中まで観ることができたのですが、帰りのフェリーの時間があり、最後まで観られなかったのが心残りでした。是非、札幌でこの映画が観られることを願っています。ここにも共生共働のヒントが潜んでいるに違いありません。

宮城大会に参加して

もじや 永島 勝章

8月28日～29日2日間にかけて、共同連全国大会宮城大会に初めて参加させていただきました。

特別報告では「どうなる、これからの障害者政策と就労」というテーマに沿って、内閣府障害者制度改革推進会議担当室長の東俊裕さんから欠陥だらけの自立支援法に変わる新たな障害者制度改革推



進会議の最新議論の内容を踏まえた報告がありました。

この制度は、それぞれの人格を認め合う「共生社会」を実現の目的として、進められています。その会議の中で、社会的事業所の存在を知らない人が大半であり、社会的事業所のことを知ってもらうことが大事だと話されました。

基調講演では「共働の現状と社会的事業所の法制化に向けて」というテーマに沿って、特定非営利活動法人共同連事務局長・わっぱの会の斎藤縣三さんからは、社会的事業所促進法（仮称）の具体的な説明があり、この法が制定されると、一般就労でも福祉的就労でもない、私たちの働き方が第三の道として国の法律で認められ保障されるようになりますが、法制化されたとしても、国に頼り切りにならずに、今まで同様努力し続けていこうと話されました。

シンポジウムでは「共に働き、共に自立できる所得を！」というテーマで、パネリストは、都留文化大学教授の田中夏子さん、株式会社ナイスの富田一幸さん、はらから福祉会の武田元さん、がんばカンパニーの中崎ひとみさん、コーディネーターは熊本学園大学社会福祉学部教授の花田昌宣さんで行われました。

感じたことは、いかにして仕事を作り出して、賃金を上げていくことが大変なことか、また、仕事量が10できる人と1できる人で協働といえるのかなど、改めて感じたことと、今後、考えていかなければいけないことがあると思いました。

2日目は、分科会があり社会的事業所分科会に出ました。パネリストはライフの石澤利巳さん、マツサクグループの松場作治さん、ピアサポートセンターそらの高橋比呂志さん、仙台ダルクの飯室勉さん、コーディネーターは共同連事務局長の斎藤縣三さんで行われ、各事業所の紹介・現況報告とこれからの展望の話があり、各事業所の様々な話を聞け、とても新鮮でした。

最後に、映画「やればできるさ」を見ました。精神病院に入っていたひとり一人と向き合っていて、個性を引き出しながら、最初は上手くいかないがその個性を仕事に発揮し一つの仕事をやり遂げて、その達成が自信となり次の仕事へとつながって、成功する姿を見て感動しました。

数字を読み取って疑ってみよう！

もじや所長 下斗米 貴行

この時期、厚労省や独立行政法人〇〇とかからアンケートが沢山くる。曰く働きたい障害者が何人いるか。一般就労したい障害者が何人いるか。回答もチェックするばかりのもので、意味のないアンケートだなと思いながら記入していると、ストレスがたまってくる。

調査というのは、より正確な割合を出すために、長期間かけて調べるのである。しかし、調査結果と現場は違うんだという声もある。

果たしてこうした調査に本当に意味があるのだろうか。仮にたまたま回答したとしても、何度も繰り返し行うことで、割合や平均値があがっていくので、調査としてあまり意味を持たないと思う。ましてや障害者本人ではなく、職員が記入しては無意味だと思う。

誰の何を良くするためのアンケートや調査なんだろう。行政と現場の温度差というのは、こういうところにもでてくる。



質問や回答はおそらく、手帳をもった人が対象だと思う。手帳がないと対象のアンケートにも参加できない。つまり手帳があって、あなたは障害者ですとならなければ、自分たちの生活を改善できないのもおかしい。この国の手帳システムは、絶対おかしい。

膨大な情報が、世の中を席卷し、障害者を取りまく環境の変化を生じさせ、障害者にたずさわっている人達の生活をも呑み込んでしまい、多くの問題だけが取り残される。だから問題を置き去りにしないため、もっと行動が必要なんだと思う。

このアンケート、国が把握している実数も実はあてにならない。

知的障害者は、日本の人口約1億2700万人のうち、約288万人になる。しかし、国が把握している数は約54万に過ぎず、残りの234万人は加算されていないのが現状だ。精神障害者も、302万人いると言われている。そのうち手帳所持者は約40万人。6～7人に1人が、福祉サービスを利用していることになる。この2

点は極めて無視できない数字である。

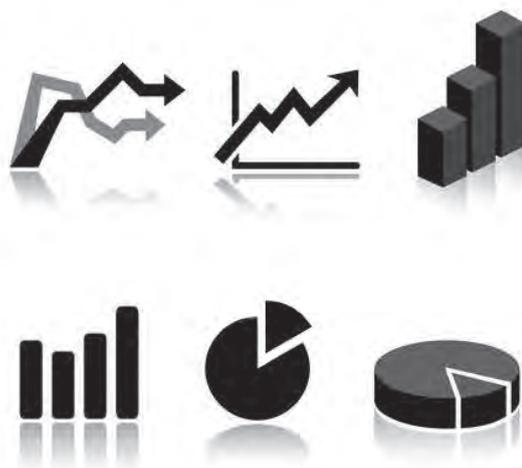
先日、手帳がない人のサービス利用に関して伺う機会があった。行政の回答は、医師の診断書とサービス決定を行うセンターの審査結果により、可否を行いサービスの決定に至るということであった。サービスが利用できることは評価できるが、これまで通りシステム的になっていては、排除されている人は、いつまでたっても救われない。

ちなみに、法務省『第108矯正統計年報(特)』の平成18年度新受刑者数の知能指数の分布は、総数約3万3千人。そのうち、知的障害の基準となるIQ69以下は、約7500人。グレーゾーンのIQ70～89には1万5千人いる。IQだけで障害とは断定できないし、発達障害は指数にばらつきがあるが参考になる数字ではある。

出所後、困って再犯しました刑務所へ。この繰り返しにより、完全に刑務所がセーフティーネットになってしまっている。

この輪回を断ち切るのは、司法や行政、そして医療でもまた、現状の福祉制度でもない。それらをミックスしたとしてもただ、混ぜ合わせただけで、問題の解決にはならない。

これらの諸問題を解決していくためには、社会的事業所の役割が、今後とも大きくなっていく。



『札幌市三丁目食堂事件』の尋問を傍聴して

アウトソーシングセンター元気ジョブ 山野 昌義

札幌市三丁目食堂事件は2008年、北海道札幌市白石区で発覚した、知的障害者に対し、劣悪な環境で働かせ、障害者年金詐取、虐待等を行った事件で知的障害者4人(女性3人男性1人)が保護された事件である。

知的障害者4人は、13年間～30年間、商事洋光が経営する「三丁目食堂」に住み込みで勤務。1日12時間以上働き、休日は月に2日だけだった。1989年以降、給与を一度も受け取っておらず、支払ったのは週1回の銭湯代一人390円のみであった。被害総額は約6,600万円也。住み込みの寮は同食堂の2階などにあり、職親会が運営していた。また、同社は99年、4人の障害者年金の振込先として4人名義の口座を北門信金に開設。以降、無断で全額計約2,600万円を引き出した。事件が明るみになったときは、この食堂は、既に営業を停止し、経営者らは行方不明。そのため、職親会や銀行が民事事件の被告になる。

2009年10月20日告発され、逃亡中の元経営者が不起訴になったことに対し、障害者支援団体と被害者4人は検察審査会に審査を申し立てを行った。



『札幌市三丁目食堂事件』の全3回にわたる尋問の第1回目を傍聴してきた感想を書こうと思います。

今回は職親会の小向事務局長に対して尋問が行われました。職親会とは社会復帰・自立・社会参加に努力している精神障害者に対して、社会適応訓練、職場適応訓練、職業訓練や一般就業・雇用に関わる事業の推進をはかり、精神障害者の安心・安定した地域生活を支援する団体です。

尋問の内容

- ①「商事洋光」とどの様な関係だったのか。
- ②三丁目食堂を訪問した際の経営者とのやり取りについて
- ③訪問した際に、就労環境の劣悪さや、虐待について気付いた事はあるか等。

①については、食堂経営会社の「商事洋光」という会社の代わりに補助金申請の書類を作成、また補助金の受け渡しを行っていたという。

②については、現金の受け渡しがどの部屋で行われたか、領収書の文字は誰のものか等の内容のため、詳しくは書きません。

私が気になったのは③についてです。

小向さんは、食堂に何度も訪れその度に、食堂経営者からの障害者雇用に対する苦労話等は聞いていたにも関わらず、障害者本人たちには声をかけた事もなかったようです。本来の職親会の役割を考えると、障害者を雇用する企業への気配りというのも必要でしょうが、そこで働いている障害者がどのように過ごしているかを確認する事が一番大事なことではないでしょうか。小向さんは就労環境や虐待の事実について「知らなかった」「気付かなかった」「経営者から話を聞いていたので、問題ないと思っていた」と言っていました。これでは、障害者が安心して働ける職場を開拓し提供していることにはならないと思います。

しかし本当に問題なのは、障害者に就労の場を提供していると、実際には虐待等を行っていた経営者にあると思います。10/26・10/27には経営者2人の尋問が行われます。この2人には、実際にどんなことがおこっていたのかをしっかりと話してもらうことを期待して傍聴してきます。

また、機会があれば傍聴記を書きたいと思っています。



TO
たね通DAY

札幌・障害者活動支援センターライフ
共働サービス たねや
〒063-0812札幌市西区琴似2条5丁目
3-5マンションモモ

たねや ☎ 011-614-1871



こんな仕事をしています

谷津 翠…「つけものぶくろ」と「しんぶん」をしました。給料が上がって良かったです。「掃除」は窓ふきやって良かったです。結構上手に窓ふきできました。

木原 悟志…たねやの中心は軽作業です。内容的には折り、丁合、シール貼り、帯止め、発送という一連の作業を月に、2、3回しています。その他にポスティングや、封入作業がたまに入ってきます。なので！！（笑）たねやではあまり仕事がありません。仕事になみがあります。メンバーがひまになることがよく見かけます。スタッフも必死に仕事を探していますが、うまく見つかりません！！みなさん、どんな簡単な物でもかまいません。なにかあれば教えてください。お願いします。

大島 隆也…僕は、仕事をするときには、自分のノルマを達成するという意識で行きたいと思っています。例えば、帯は12:00迄に配られた分は終わらせるとか「ポスティング」は前以上の枚数を配って1人で1つの区間を終われるようにする。地図をしっかりと見て動けるようになりたいです。ポスティングではチラシの入れられる場所と入れられない場所があり特に分かりづらいところを見分けてミスが減らして出来高と給料を上げたいです。

小山 譲…10月に入り気分的には年末（気が早いかもしれませんが）猛暑や残暑が続いたためでしょうか？秋の風が肌寒く感じる時期になりました。おとっとポエムみたいになってしまいました（笑）最近の仕事としましては折り差し込みはもちろん1番の変化たねや内部のそうじです！いままでよりも係を増やし、さらに隔々までキレイにしようということです。まだスタイルが変わって日が経ってないので、不慣れな部分ではありますががんばっていこうと思います。

柳瀬 司…ポスティングに、もっと行けるようにしたいと思います。

西野 悠斗…おびどめとチラシのさしこみとチラシのおりです。

笹尾 知弘…今思うことは、本当の本当に心身両方の状態を（疲れをとり）やりたいことの世界へ行きたいです。

松村 亨…せいそう「ゴミが、ひとつもないようにする」決まった日は、かならず出る。

宮澤 智成…僕は、おびに挑戦しました。けっこう手がしびれるくらいおびに力をギューといれ、おびがずれないようにテープをはって、僕は、はりきっておびに力をもっと、いれれば、ちょうどいいおびができると思い込みながら緊ちようしながら、しんげんに仕事をやりました。僕は、おびできると、でも力が抜けるときもありました。おびの練習をなんかいかやっているうちにじょうずになりました。

南 友康…ぼくは、8月10日から清掃に行きました。さいしょは、見学してみようかなとおもいました。いっしょうけんめいそうじして給料をもらえるときいたのでぼくはそうじをやってみようとおもいました。清掃がんばりたいです。お金をかせぎたいです。

高橋 佑直…最近の主な仕事は、備品の棚の整理、ライフの20周年祝賀祭の準備を行いました。

後藤 冬風…しんぶんのさしこみをがんばりました。

高橋 洋幸…今回の作業は、もっと新聞の折りや丁合を頑張りたいと思います。

山本 守一…なぜか清掃チームが、汗をかいて帰ってくるので僕たちにもがんばりたいと思います。首にタオルをかけて来る姿があったからなのか作業するリズムは少々早くなっている感じです。スタッフとのコミュニケーションも良くなって作業する早さでなくて楽しさが僕にはできていません。

今月の特集

●●岡林名人のオセロ対局会●●

岡林 満美

STVの24時間テレビをみに行って、ライフのバザーの前で何となくオセロをしたらどうが、ということになりオセロ盤を取りにいったら夕方7時頃から始め、10時近く迄、14～15名の人達と対局しました。オセロ三段、北海道チャンピオンに挑戦！というキャッチフレーズで、オセロの難しさという奥の深さを知ってもらいたくて、少し手を抜いて、それと少し本気でやりました。皆オセロの奥深さにびっくりしたし、僕も改めてしっかり勉強しなければいけないと思った二日間でした。

オセロに親しんで関心を持っている人が多いこともわかったので、いろいろな機会に教えてあげたり、対局したりできると良いな！と思いました。



新商品
コーナー
今月のおすすめ品

☆黒千石きなこ 80g 250円

☆黒千石深煎り茶
10g×8包入り 400円
ティーパック1包に対し、お湯を100cc入れて3分待つ。

黒千石とは…
原種を30年以上大切に保存していた方、この原種50粒の内28粒を発芽させ商業生産数にする技術を教えた中央農業総合研究センターの方、これを地域の為と信じ耕作地確保に奔走した方、これに共鳴し町として取組みを決断した町長、豆類の中でこの黒千石に健康維持の為に大切な成分の一つが含まれている事を突き止めた北海道大学遺伝子病制御研究所教授、いつかきっと各々の触れ合う人々、各々が想う人々に、喜ばれ、役立ち、そしてそれが自身の深い喜びと成る日が必ず来る。ありがとう。

再入荷&冬期限定商品

- ・ひとくち黒棒…210円
- ・黄金千貴使用 芋けんぴ…210円
- ・玄米パン・あん入り 3個パック…368円
- ・黒糖しょうが湯・ウコン入り
5パック入り…294円
- ・かりんしょうが湯 5パック入り…336円

今月のレシピ

ひだまり特製！玉ねぎドレッシング

材 料:玉ねぎ (適量)
ジロロモーニのOGエキストラバージンオリーブオイル・ぼん酢しょうゆ・ゆずの村
作り方:玉ねぎはできるだけ細かいみじん切りにする。ぼん酢とオリーブオイルを1:1の割合でボールに入れ混ぜ合わせる。最後にみじん切りにした玉ねぎを入れて出来上がりです。
お好みの野菜にかけてお召上がりください。
(来月から教えてほしい&作りたい料理のレシピを募集いたします。お気軽にひだまりへ！！)

コン・プリオひだまり TEL(011)615-4131
西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム1F
ひだまり配送センター TEL(011)613-0611
西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1F
コン・プリオひだまりに配送センターができました。

近日入荷予定
有機栽培×フェアトレード×伝統技法
→本物のチョコレート！！

今年のラインナップはこちら！！

- ☆ミルクチョコレート…483円
- ☆ホワイトチョコレート…504円
- ☆エクストラチョコレート…504円
- ☆ビターチョコレート…483円
- ☆ヘーゼルナッツチョコレート…504円
- ☆ココナツミルクチョコレート…577円
- ☆ウインターチョコレート…682円(11月発売予定！)

チョコレートに使われている原材料はこだわっております。
ミルク：スイスで生まれた生育環境で育つ牛から分けてもらっています。添加物・抗生物質・ホルモン剤や遺伝子操作された飼料は使わず、栽培過程が明らかな飼料を使っています。

バナナ：マダガスカル熱帯雨林地域で小規模農家が栽培しています。「黒い宝石」と言われるバナナの王様「ブルボンバナナ」をパウダーに加工して使用しています。

カカオ：ドミニカ共和国、ペルーの小規模農家が栽培しています。プランテーションではなく、マンゴーやアボカドの木などと共に豊かな自然の森で栽培されます。

砂糖：パラグアイの小規模農家が、牛車や牛糞などの牛の力を借りて栽培しています。糖蜜がほどよく残った独自製法の薄茶色の砂糖で、黒砂糖ほどクセがなくチョコレートの繊細な味を邪魔しません。

今年も美味しいチョコレートの時期がやってまいりました。10月下旬より入荷いたします。

今後のバザー予定

- 11月3日 (水) 文化の日
八軒地区センター バザー出店！！
- 11月6日 (土)
札幌市立北翔養護学校 学園祭出店！！

* 今後も出店させていただき場所を随時募集中です。よろしく願いいたします。ひだまり一同、力いっぱい出店いたします。

来月からいよいよ登場します！！
ひだまりの主人公たち！

メンバーの一言コーナー (仮) を予定しております。どんな言葉が飛び出すか？はたまたどんな話題が繰り広げられるか？超個性派集団ひだまりの実態をご期待下さい！！

メンバー募集

ひだまりでは一緒に働いてくれるメンバーの方を募集しております。楽しく仕事したい人！！ぜひ、一度見学にきてみませんか。そして一緒に働きましょう。明るく楽しい職場です！

ヘルパー派遣業務・在宅介護支援 ヘルパーステーション

ゆい 繭結



『自閉症の僕が跳びはねる理由』 東田直樹／著 エスコアール出版部

みなさんは自閉症という障害を知っていますか？
生まれつきの脳障害によっておこるものだと思いますが、理解している人は少ないんじゃないかな。

自閉症にかかわらず、ハンディキャップを抱える人は、その障害だけでなく、周囲の人の無理解や偏見によって、つらい思いをすることも多いかもしれません。

この本は、自閉症を抱えている東田君本人によってつづられたもの。

東田君が書くように、どんなハンディキャップでも1つの個性ととらえるならば、どんな人でも生きやすい世界になるかもしれませんね。



この本が凄い！

(ヘルパーステーション繭結 管理者)
アングル かさい

正直に話をしたい。この本「自閉症の僕が跳びはねる理由」は私の親切そうで物知り顔の欺瞞を痛罵し、無知や偏見、浅知恵を見抜いた強烈で正鵠の一冊である。私はここまで真摯で切実な叫びを聞いたことはない。

著者は1992年生まれの自閉症児。この本が書かれたのは2007年、養護学校中学3年の15歳である。本の構成は自閉症に対する一般的な質問に答える形式で綴られており、その中に数編の短編小説が織り込まれている。

本を開いて最初に感じたのは、自閉症なのになぜこんなに明解なのか、であった。そんな偏見を待ち受けるように、序文の「はじめに」で、自分は会話が今でもできない、と独白する。思っている事を言葉として話すことが困難であり、できても思いとは逆の意味の言葉を発してしまう。筆談やパソコンの経路でコミュニケーションがとれるようになったのはごく最近とのこと。話せないのではなく言葉を声に換えられない事実からより深い58項目からなる「どうしてですか？」の問いかけに、素直に、正直に、実直に、心を編むように言葉を重ねていく。

たとえばこんな設問「いつも動いているのはなぜですか」にこう答えている。

「僕はいつも体が動いてしまいます。じっとしていると…中略…不安で怖くていたたまれないのです。…中略…誰でも僕らが動いていると、落ち着きなさい、と言います。でも、動いていた方が安心できる僕にとっては、落ち着きなさい、という言葉の意味が分かりませんでした。…略…」

こんなにも苦しみ悔恨に耐え、今に怯え明日

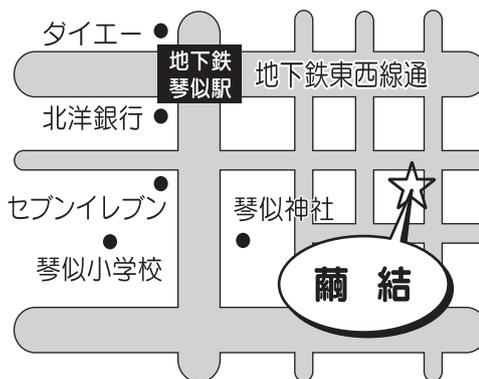
に絶望する自閉の障がい者。であるのに私は、役所の相談窓口にいたときもボランティアの会場でサンタに扮するときも、今の仕事である介護者としても、ただ無力に行動を容認し、したり顔で微笑むことが対応の全てであった。

言葉のオウム返し、奇声大声、こだわりや執着等、自閉症特有な突発的で無差別のような症状が、この本でおぼろげだが氷解していく。いままで許容はしていたが理解はしていなかった自閉の行動原理。この肉声にどう答えればいいのか。

この本に数編のショートストーリーが入っている。気の利いたお洒落な小品だが、このような作品の展開や場面設定にも理由がある。

あらゆる場面のストックを必要とする、彼らの生きる術の結実とっていいだろう。私はそんな作品中「ずるっとすべった」という「もしかめ」を連想する話が大好きだ。ただただ、やられたと大笑い。傑作ですな。

そんな「自閉症の僕が跳びはねる理由」は、我がライフの必読書だ！



札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒 1F
TEL 011-623-2505 FAX 011-644-0088



印刷・編集・制作・出版・企画
 テープ起こし
 名刺、小冊子の版下作成
 ホームページの作成管理

〒063-0812
 札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションMOMO 1F
 TEL (011)644-5533 FAX (011)613-9323
 E-mail: mojiya@adagio.ocn.ne.jp

Mojiya

20周年記念式典に参加して

南條 恭彦

10月16日、琴似のホテルヤマチで開催されたライフの20周年記念式典に参加しました。映像や主張を拝見して、20周年という長い年月の中で、ライフの障がい者メンバーが今日まで一生懸命頑張ってきた苦労の意味が、少し伝わってくるような感想を持ちました。

ライフは障がい者の就労の場としてわれわれに仕事を与えてくれ、障がいを持つ人間には非常にありがたい事業所団体であります。私はこのライフに入ってから1年と4ヶ月ほどですが、改めて事業所のみなさんの職務における真剣な姿勢と、障がい者1人ひとりが共に1つの仕事の目標に向かって仲間意識をもって働いている熱意が感じられました。

今、世間では仕事をしたくても職につけない人が多勢おります。そういう面からも仕事があることの大切さを認識して、これからもライフを支えていく一員として、そしてこれからの時代を築くメンバーの1人として、今後もこの姿勢を忘れずに頑張っていきたいと思えます。

もじやでの仕事について

鈴木 麻依

私が、もじやさんに来てから早いもので3ヵ月半あまりが過ぎようとしています。

もじやに入ってからまだ3ヵ月半程しかたっていません。けれども少しずつではありますが、パソコンの仕事やその他の仕事も含め、私にもできそうな仕事が徐々に徐々に増えてきて、充実した毎日を過ごしています。これからも、一日一日を大切に与えられた仕事を一生懸命、自分ができる限り尽くしていきたいと思えます。

地下鉄に乗って

門田 輝美

地下鉄に乗るとお年寄り、妊婦、身体の不自

由な方用の専用席がある。ちょっと前までは優先席だったはず。優先席では譲らない人が多いから専用席になったのだろうか。混んでいるときは誰か座ってくれ〜と思うときもある。でもまあよ、大体こんな専用席が有ること事態がおかしいのだ。私が子どもの頃は誰もが自然と席を譲ったものだ、とブツブツ昔を懐かしんでいると学生時代を思い出した。

そう言えばおじいさんが目の前に立っただけで、席を譲ろうとしたら『私は運動のために立っているんだから席を譲らなくていい、君が座っていなさい』と迷惑そうにキッパリと断られた。なんだかばつの悪さを感じながらも一度座ったものだ。でも私が降りた途端、空いた席に座ったおじいさんを見て思った。『なんだ結局座るんじゃない。ただ年寄り扱いされたのが嫌だったの？そうだったとしても人生の先輩なんだから人の好意は素直に受けろよなあ〜。そんなことしてたら、みんなひねくれて誰も席を譲らなくなるぞ』と…。人の真心より自分の見栄を優先するお年寄り。

あ〜そうだったのか、人の心を素直に受けられない一部の頑固な年寄りのせいで、何とも人情味のない専用席と言う結果なのだと妙に納得してしまった。

〜おじさんのひとり言〜

おじさんは今年で41歳。しかし、地下鉄で立っているのはつらい。毎朝『私は足が悪いんです』というふりをして足を引きずりながらシルバーシートに座る。周りの人はどんなふうにいるのかなあ。でも本当にお年寄りなどが来たらちゃんと席を譲りますよ(イヤイヤ…)

by sin



Cafe de kibariya



鎌田 悦子

気付けば街には雪虫が飛び交い、また来る冬のことを教えてくれます。

そんな中、10月16日(土) 琴似のホテルヤマチにてライフ設立20周年祝賀会が開催されました。作業所の仲間達も集まり、いろいろな話も聞けて、楽しく参加させていただきました。中でも、ライフ関係者によるパフォーマンス「共に働くってええじゃないか」はたねやの黒さん・きばりやの為井さん司会のもと、たくさんのスタッフが「ええじゃないか! ええじゃないか!」と何度も何度も叫び、踊る姿に胸を打たれました。

彼らはたくさんの困難を乗り越えてきたはず。これからは何があるのだろう。私には何ができるのだろうと考えずにはられませんでした。

これから外は北風がピューピューです。そんな中でも来たくなるような温かい料理を考案中。体も心も温まる、そんなカフェを目指してこれかも頑張ります。

PS. エルプラザの清掃日にクーラーも綺麗に。なんと! 床もワックスがかかってピカピカです。うれしいー☆



鈴木 昭子

季節もすっかり秋が深まってきたので、温かいゆず茶やコーヒー、その時々によりますがカフェオレやポタージュなどの飲み物がよく出る今日この頃です。

最近では、またちょっとずつですが、ホールを利用するお客様や常連のお客様も定着してきて嬉しいです。日々の流れによって、その日その日の忙しさも違います。それでも、忙しい時のほうが「よく働いた!」と思う分、動いているなという感じは常に受けます。たまに忙しすぎて自分のやりたいことが分からなくなる時もありますが、これからもカフェに来た頃の気持ちを忘れずに働きたいと思えます

オススメ!! Hotドリンク

馬路村のゆず茶 1杯 300円

ゆずと蜂蜜で作られたこのお茶はほんのり
甘さにうっとり☆
体の芯から温まる幸せな1杯です



Cafe de kibariya

TEL/FAX:011-758-6533

札幌市北区北8条西3丁目
札幌エルプラザ3階ホール前

営業時間 11:00~18:30

定休日 年末年始

※エルプラザ内配達承ります。



私のオススメ

「アメリカ先住民族の精神世界」

ひだまり 永田 陽子

最近、本を読むことも疎かになってきた私がオススメするのもなんですが、以前から収集してきた本の中からこれをオススメします。

アメリカ先住民族と聞いて皆さんが真先に思い浮かぶのはなんでしょう？かの有名なクレイジーホースや鷲の羽飾りをつけた民族衣装でしょうか？もともと住んでいた場所を突然奪われ、居留地という枠の中に閉じ込められた彼らの歴史は私たちには計り知れないものがあります。今回はそのような歴史的な観点からのオススメではなく、彼らの内側に共感できた本をご紹介します。

私が先住民族に興味を持ったのは、もう数えるのも嫌になるくらい昔のことです。その土地に根付き、すべてのものに感謝して生き、そして死すらも受け入れる彼らの姿に惹かれました。

この本は、数あるネイティブアメリカンの中でも、ラコタ族の話がされています。本の中で「ミタクエオヤシン」という言葉があります。これは『私に繋がる全てのもの』という意味で、彼らは日常的にこの言葉を口にするのです。自分は一人では生き

られない。全てのものに繋がる生命連鎖の輪の中の一つの存在にすぎない。全てのは人間だけでなく、動物・植物・自然…それらのもののおかげで自分は生かされ、また自分もそれらのもののために生きる。

日々の些細な忙しさに追われ、せかせかと生きている自分を見直すにはとてもよい機会を与えてくれた本でした。

ラコタ族の日常的なとても笑える話から伝統的儀式まで、さまざまな角度で彼らの生活が書かれているので、もしお時間がありましたら皆さんもご一読ください。少しはスローライフに近づける気がするかも??



著者：阿部珠理
日本放送出版協会 NHKブックス

照りつける太陽と大平原に培われたラコタ族の精神性は、「かさとは何か」「人間とは何か」という根源の問いを、我われ現代人に投げかける。

定価(税込):866円

🎉 ご協力ありがとうございます 🎉

賛同会費 西道 敏一様

アドボケ購読料 鈴木 一朗様

寄付金 田原 智文様

編集後記

ライフの設立20周年祝賀会も多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに終了しました。本当にありがとうございました。あらためて多くの方々に支えられていると実感した次第。残念ながらご都合がつかず、ご出席いただけなかった方々も、どうぞ引き続きライフをよろしく願っています。今年は立て続けにあれこれとバザーや学習会、そして20周年祝賀会と続きましたので、スタッフもメンバーもお疲れ気味の様子です。しかし、そう言っているのもつかの間、年賀状の印刷や年末の物販が始まります。よろしく願っています。(たけ)

アドボケイト 神無月号(第119号)

2010年10月10日発行(毎月10日発行)通巻第463号

HSK通信1973年1月13日第3種郵便物認可

発行人/北海道身体障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子

〒063-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

編集人/NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ
事務局長 我妻 武

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションモモ1F

TEL 011-614-1873 FAX 011-613-9323

E-mail npolife@beach.ocn.ne.jp

ホームページ http://npolife.net/

郵便振替口座 02710-4-63485